

那覇市港臨港道路空港線 沈埋トンネル

当協会恒例の施設見学が（建築設備技術者協会九州支部沖縄会との共催で平成17年2月22日（火）行われた。大雨の中、正会員、賛助会員合わせて110名が国内初の「新工法枕埋トンネル」見学した。

沖縄総合事務局那覇港湾・空港事務所担当の案内で午後2時から三重城側換気塔工事用エレベーターで入坑し地底20mのトンネル内広場で映像ビデオによる担当者の説明を受けた。映像ビデオは工事概要、施工方法が分りやすく、一般の人が高度な最新土木技術の一旦が分かる様になっていた。

枕埋トンネルは全部で8函でつながるが現在4函が埋設されていた。

説明を受けた後、海底に埋設されたトンネルの中を参加者が歩き、地震、水圧に耐えるトンネル函体、函体と函体を接続する耐水ゴム、水密隔壁に触れて、見る、貴重な体験を行った。3時半になり広場に集合し協会から担当者にお礼を述べ見学会を終了し、エレベーターで地上に戻り雨の中各自散会した。

1999年4月には那覇空港の新ターミナルが供用開始され、新しい沖縄の空の玄関として、機能しています。それに伴い、今後、取り扱い貨物量及び人々の流出入の増大が予想され、港湾、空港関連の輸送体系の整備が不可欠となっています。

那覇港臨港道路空港線は、那覇港と那覇空港を結ぶことで背後圏との円滑な輸送体系教化する。

また、慢性的な交通渋滞の解消を図る為西海岸道路の一区間として計画され県内初の海底トンネルで国内初の枕埋トンネルとなっている。

那覇枕埋トンネルは、那覇ふ頭港口部を海底トンネルで横断し、波の上区と那覇空港を8函の枕埋函で直結させる延長1.1km、片側3車線往復6車線の自動車専用道路トンネルです。



トンネル内で担当者から説明



トンネル内を歩行



トンネル内

